

学習及び行動において

指導上特別な配慮を要する児童生徒の実態把握資料

発達障害等の可能性のある特別な支援の必要な生徒を把握するにあたり、障害特性を考慮した「学習面（聞く・話す、読む・書く、計算する・推論する）」「行動面」「人間関係面（社会性）」の3つの側面から見ていくことにより、困難さの状況をつかむことができます。

<記入上の注意>

①このチェックシートは、全般的な発達に遅れはないものの、学習及び行動面に指導上特別な配慮を要する生徒に対して、より適切な教育を行うための情報を得ることを目的に行うものです。主に、次のような児童生徒を対象としています。

○学習面で何らかのつまずきがある児童生徒

○行動の自己調整ができなかったり、対人関係に課題があったりする児童生徒

②このチェックは、日頃から対象生徒と接し、よく観察している人が行ってください。

*できるだけ関わりのある複数の人で行ってください。

③このチェック項目は、5領域に分かれており、領域ごとに8項目、全部で40項目あります。

I 聞く・話す II 読む・書く III 計算する・推論する IV 行動
V 人間関係（社会性）

④評価方法は、以下の通りです。同年齢の生徒の実態と比較して、対象生徒の実態を点数で記入してください。

よくある…2点

ときどきある…1点

年齢相当である…0点

<留意事項>

このチェックリストは、担任教師による回答に基づくもので、医師による診断によるものではありません。したがって、本チェックリストの結果は、LD・ADHD・高機能自閉症の割合や診断を示すものではないことに注意する必要があります。

※このチェックシートの項目は、以下を参考にして作成しました。

- ・独立行政法人 国立特殊教育総合研究所 平成16年「学習障害の判断に必要な心理教育的アセスメントに関する研究（平成13年～15年）」
- ・岡山県総合教育センター 平成27年2月 ハンドブック「高等学校 ハンドブック 自分らしくかがやく」
- ・平成24年文部科学省「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する全国実態調査」
- ・長崎県教育センター 「学習及び行動において指導上特別な配慮を要する児童生徒の実態把握表」